



説教要旨 「神様から逃げ出したヨナ」

ヨナ書1章1～16節

神様はヨナにニネベの町へ行って、神の怒りがこの町に向けられている告げのように命じられますが、ヨナはその言葉に従おうとせず、逃げようとしてしました。それは、神様が行くようにと命じられた場所が、ニネベだったからです。ニネベという町はアッシリア王国の首都です。とても強大な軍事力を誇り、周辺の国を侵略し、領土を拡大させていました。ヨナのいたイスラエルもアッシリアの侵攻を受けていました。神様は、ヨナの国を侵略している国の首都に「悔い改めて滅びをまぬがれよ」と、やり直すチャンスを与えるためにヨナを遣わされようとしているのです。

ヨナにしてみれば、むしろニネベには滅ぼされてほしいのです。なのにニネベの人々に悔い改めるチャンスを与えるために、自分がニネベに遣わされるなど受け入れられることではないのです。だからヨナは神様に背を向けて逃げ出したのです。ヨナはニネベの人々にまで向けられた神の憐れみに対して、最後まで反感を持っており、神様と一緒にニネベの町の人々が罪を悔い改めたことを喜ぶことができないのです。

けれどもこの神様の憐みは、ニネベの人々にだけ向けられているわけではありません。むしろこの預言者ヨナにこそ、その憐みが最も注がれています。神様は、ヨナが憎しみにとらわれたままであることを惜しまれているのです。『その憎しみから解放されて欲しい。』神様はそう思われたからこそ、ヨナにニネベへ行くように命じられたのです。だからこそ、ニネベの町が滅びを免れたことに怒り、すねて背を向けるヨナに語りかけるのです。何度も何度も。ただヨナのことが惜しいから。『あなたが惜しいのだ』神様はヨナにそう語りかけておられるのです。

神様は、わたしたちに何度もやり直すチャンスを下さいます。神様の事なんて知らない。と、神様に背を向けてしまう私たちに、時に厳しく、けれども我慢強く、私たちが神様のところへ戻ってくるように語りかけてくださるのです。

『あなたが惜しいのだ』と。

神様はわたしたちのことを決して諦めないのです。

(2019・6・9 説教者：稲垣真実)